

株式会社近鉄百貨店の取組紹介 ～レジ袋有料化への対応～

令和2年7月1日からのプラスチック製買物袋の有料化にあわせ、食品売場におけるレジ袋にはバイオマス素材（植物由来のポリエチレン）を50%配合、食品用クラフト手提袋にはFSC®認証紙（責任ある木質資源を使用した紙）を使用するなど、環境に配慮した素材へと切り替え、有料化を実施いたしました。

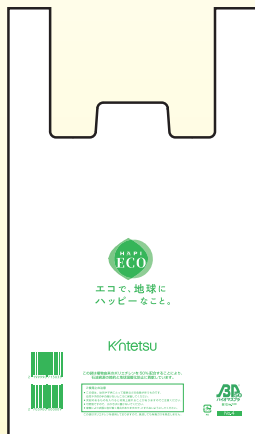
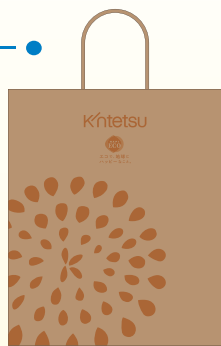
これにより、環境素材への変更とエコバッグの利用促進によるレジ袋使用枚数削減の両面から、環境保全へのさらなる貢献を目指しました。

あわせて「ハピエコ」をシンボルマークに「エコで、地球にハッピーなこと。」のメッセージを添えたデザインにリニューアルし、環境保全の啓発にも努めています。

有料化実施以降、店舗の食品レジにおいては、約8割のお客様がレジ袋を辞退されており、大幅な使用枚数の削減となっています。引き続き、エコバッグのご利用など、資源の節約と環境保全への取組に皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

今後も地域の皆様のご協力のもと、レジ袋の削減だけでなく、ごみの排出量抑制や省エネルギーの推進など、環境負荷低減のための取組を積極的に推進し、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

(株式会社近鉄百貨店)



事務局

- ・山口 尚孝
- ・清水 節子
- ・山本 清治
- ・松村 幸子
- ・山本 幸子
- ・山本 清治
- ・松村 幸子
- ・山本 正行
- ・山本 宏勝
- ・山本 林和臣
- ・山本 康夫

ごみジャーナル第49号についてのご意見、ご感想をお気軽に左記までお寄せください。

〒525-0043
草津市馬場町1200番地25
草津市役所くさつエコスタイルプラザ内
「ごみ問題を考える草津市民会議」
広報委員会

TEL (077) 561-6580
FAX (077) 561-6583
E-mail: ecostyle@city.kusatsu.jp

ごみ出しのルールを守りましょう

8月20日の夕方、道路沿いのごみ集積所の前に、焼却ごみの袋が残っていました。市の指定袋の中に大きな黒い袋があり、その中に燃えるごみ以外に、缶や、ビンが入っていました。8月24日の朝にも、市の指定袋の中に缶などを含んだ黒い袋の入った焼却ごみがあり、夜間の内に持ち込んだものと思われました。

ごみ集積所を管理する町内会に連絡したところ、早速、ごみ集積所に警告の紙を貼っていただきました。後日、間違ったごみを出した人は分かり、正しい分別を伝えることができました。

缶や、ビンは資源ごみとして出して頂ければ、リサイクルできます。草津市に転入されて、ごみの出し方が分からなければ、ごみ分別ブックやごみ分別アプリを活用するか、地域の方に聞いて頂ければ、いかがでしょうか。

ごみ分別アプリのダウンロードはこちらから



編集後記

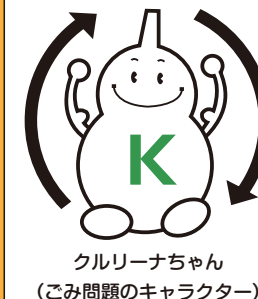
新型コロナウイルス感染症はごみ問題にも大きく影響しているようで、ステイホームなどが要因の一つと考えられる家庭ごみ量の増加傾向が見られます。

また、三重県の海岸では漂着ごみの中に使い捨てマスクが目立つようになったという報道がありました。深刻な問題であると感じるとともに一人一人が行動を見つめ直すことが重要と考えます。

ごみジャーナル

No.49

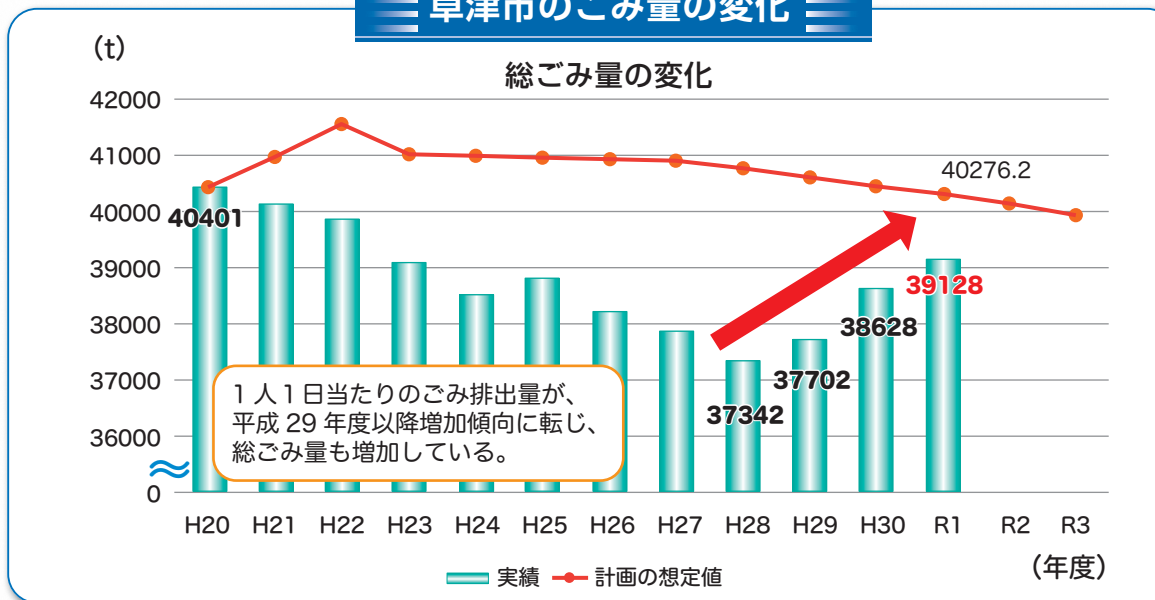
発行/ごみ問題を考える草津市民会議 編集/広報委員会



クルリーナちゃん (ごみ問題のキャラクター)

第1回会員向けセミナー

草津市のごみ量の変化



現在、草津市では、市町村におけるごみ処理の基本的な方針を定める「一般廃棄物(ごみ)処理基本計画」について、次期計画の策定を行っています。

ごみ処理についての見直しが進められる中、本会では、草津市におけるごみの現状やごみの減量につながる取組を学ぶため、令和2年8月26日に会員向けセミナーを開催しました。

講演1 草津市のごみの現状 講演者：草津市資源循環推進課

近年の草津市は上記グラフのとおり、ごみ総排出量が増加傾向にあります。家庭における更なるごみの減量と資源化が必要です。今の暮らしを続けていくためには、限りある資源をできるだけ長く使い、環境に与える負担を小さくすることが大切だと感じました。

後半では、ごみ処理基本計画について学びました。計画の見直しは、市内で発生、処理する一般廃棄物をいかに減らしていくかを考える最も重要な機会であり、皆さんとともに今後の草津市のごみ処理について考えたいと思います。

※一般廃棄物とは、家庭から出るごみや事業者から出る紙類、食品類、剪定枝など。

講演2 段ボールコンポストに取り組みよう 講演者：段ボールコンポスト部会

段ボールコンポストとは、段ボール箱を利用した生ごみ処理容器で、微生物の力によって生ごみが分解され、堆肥が作れるものです。

令和元年度に草津市内から排出された焼却ごみ類は、ごみ全体の86%を占めていることから、焼却ごみ類に含まれる「生ごみ」を減らすため、生ごみを堆肥化できる段ボールコンポストについて紹介しました。この夏は作成した堆肥を利用したことでトマトやキュウリがたくさん採れた体験談を交えながら、利用するにあたってのコツや注意点の説明をしました。段ボールコンポストのメリットは、「においが少ない」「場所を多く取らない」「費用を低く抑えられる」などが挙げられます。

本会では本会会員を含め、多くの方が生ごみの減量につながる段ボールコンポストを利用する事を推進します。

段ボールコンポスト基材セット販売中！ 1セット500円
詳しくは事務局(草津市くさつエコスタイルプラザ)までお問い合わせください。

コロナ禍における草津市のごみの現状

新型コロナウイルス感染症により、私たちの暮らし方・生活は随分変わってしまいました。うつらない・うつさないためのマスク、手指のアルコール消毒に始まり、いつ感染するか分からない怖さを感じる日々が続いております。

日常生活の変化は、家庭ごみの増加にも表れています。草津市の4月から8月の家庭系ごみの搬入量は破砕ごみ、段ボール、粗大ごみが昨年同期に比べ20%~30%増、他にもプラスチック、ペットボトル、缶、ビンなどが増加傾向となっています。このことは、ステイホームによる飲食形態の変化や自宅内の不要品の整理が進んだことなどが要因と考えられます。



このような状況の中、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言・活動自粛期間であっても、いつも通りにごみ収集車は休まず来てくださいました。ごみを収集する皆さんはいつも以上にリスクを抱えながら、最前線で社会を支えていただいているということに私たちは気づかなければなりません。

私たち一人一人に出来ることは、感謝の気持ちを持つとともに、資源化へのさらなる徹底と、分別をしてごみ出しをすることの大切さを再認識し、不安のない社会の一端を担うことではないでしょうか。作業員の皆さん、運転手さんが、危険を顧みず、強い使命感を持って従事されておられます姿には、大変感謝申し上げます。お体を大切にけがの無いように気を付けて、これからもよろしくをお願いします。

お願い 使い終わったマスクは“焼却ごみ類”で出してください

本市では、ごみの不法投棄の発生を抑制し、良好な地域環境を確保することを目的に、不法投棄の監視パトロールを実施していますが、今年に入り不法投棄ごみの中にマスクのポイ捨てが目立ってきました。

背景には、新型コロナウイルス感染症の流行を契機に日常的にマスクの着用が求められ、この動向は今後も続くことが予想されます。

路上や空き地にポイ捨てされたマスクはごみとして目立ち、地域の美観を大きく損なうだけでなく、回収時においても感染の危険性が懸念され、衛生面で慎重な対応が求められます。



散乱ごみの中のマスク

集めたマスク

また、冬季には新型コロナウイルス感染症以外にインフルエンザの流行も懸念され、さらにマスクの着用機会が増えることが見込まれます。

使い終わったマスクは、必ず「焼却ごみ類」の袋に入れて出してください。

(草津市資源循環推進課)

令和2年度ごみ問題を考える草津市民会議顕彰

笠縫東学区でごみの資源化や地域の環境美化に貢献されている平野重治様を、本会から顕彰させていただきました。

平野様は資源物であるアルミ缶や古紙類の資源化を推進するため、告知看板の設置等を通じて、町内への啓発を積極的に行い、町内会の資源回収活動を後押しする取組を行っておられます。また、町内会内の19か所のごみ集積所を日頃から率先して清掃や修繕し、地域の環境美化に貢献されてきました。

今後も平野様のますますのご活躍をお祈りしています。



ごみ減量の活動で世界の子どもを救おう

【草津市社会福祉協議会の取組】

ペットボトル飲料の消費に伴い、大量のペットボトルやキャップのごみが出ます。少しでもごみ減量に繋げようと、草津市社会福祉協議会ではペットボトルキャップの回収を行っています。回収されたキャップは、市内作業所に送られ、洗浄・分別の後、業者に売却し、その売却益が子どもたちのワクチン接種費用に充てられます。捨てるのではなく、ペットボトルキャップを集めて、草津市社会福祉協議会などにある回収箱までお持ちください。



老上まちづくりセンター玄関前の回収箱

令和元年度収集実績
ペットボトルキャップ 254件 1222.1kg

コラム①

4つのRでプラスチックごみ対策

平成12年に日本における循環型社会の形成を推進する基本的枠組である循環型社会形成推進基本法が施行され、リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）の3つの頭文字を総称した3Rの考え方が導入されました。

そして、平成16年のG8サミットにおいて、当時の内閣総理大臣 小泉純一郎氏は3Rを通じて循環型社会の構築を目指す「3Rイニシアティブ」を提案され、国内での循環型社会づくりを基礎として3Rの国際的な推進に主導的な役割を果たしていく事を世界に宣言しています。

一方で、最近では国連提唱SDGsでも廃棄物の発生防止と削減に重きを置き、プラスチックごみを極力出さないようにすることが重要であるとされるため、3Rに加えてリフューズ（断る / 使わない）も大切と考えます。

例えば、レジ袋を使用しない、小分けのプラスチック商品を買わない等、皆さんの日常生活からできることはあります。積極的にリフューズしていきましょう。

参考文献：図解でわかる14歳からのプラスチックと環境問題（太田出版）
海と地域を蘇らせるプラスチック革命（日経BP）



コラム②

『海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて』シンポジウムを聞いて

令和2年9月3日に日本経済新聞社主催のシンポジウムが開催されました。その中から、以下の2点をご紹介します。

1点目はCLOMA(クロマ)の存在です。海洋プラスチックごみの問題解決に向けて世界全体で推進するべく、国内企業26社参画の組織「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス」(英文名: Japan Clean Ocean Material Alliance、略称[CLOMA])が設立され、海洋プラスチックごみの削減活動を開始されています。

2点目は、99%再生材ごみ袋[FUROSHIKI]です。これは、使用済みの廃プラスチックを再生材ごみ袋へとリサイクルする取組です。月に411万枚のごみ袋へと再生する体制をとられており、注目されています。

シンポジウムでは海洋プラスチックごみの本質的解決は日常の選択からと指摘されたことから、一人一人の協力と理解が必須であり、過剰包装は必要か、プラスチックが本当に必要なのかと疑問を抱くことが第一歩と感じました。

